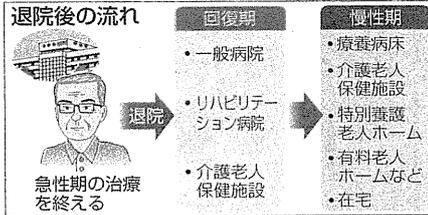


生活

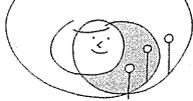
医療費削減で社会的入院減り…

行き場のない高齢者が増える背景として、退院が促進され、「社会的入院」が減っていることが指摘されている。かつては、入院治療の必要がなくなっても、病院にいられるケースがあった。しかし、医療費を減らすため、10年ほど前から、入院日数が長くなると病院収入が減る仕組みが導入された。

急性期や回復期、慢性期など、患者の状態に応じた病院の機能分化が進み、急性期病院では2～3週間で退院が促されるように。診療報酬は一般に、医療行為が多いほど増える出来高払だが、急性期病院では、病気によって報酬が定額で決まる「DPC（診断群分類）」を導入する所が増え、より入院が短縮化されている。また、療養病床の削減も、退院後の受け皿不足の一因といわれている。



ゆうゆうLife



行き場のない高齢者、増加

経験者を支援するNPO法人「自立支援センター」ふるさと（東京）が、簡易宿泊所を改装して運営する。生活保護費で払える入居費用で、職員が24時間常駐。食事や医師・看護師の指導に基づいた服薬の見守りなどのサポート

トを行い、必要な人には往診や訪問看護も手配する。小林さんは、2年前に救急搬送先の病院で肺炎と慢性呼吸不全と診断され、都内の福祉事務所の紹介で入居した。訪問看護を利用し、入浴や在宅酸素の管理に援助を受ける。入退院を

繰り返しており、1人での生活は困難だ。ふるさとの会は、社会的入院をしている人などが民間アパートに移るための一時的な住まいを提供してきた。地域生活につなげる中間施設は、入居が長期間化している。在宅酸素や

必要人には、サービスを組み合わせさせて手配する支援が必要だ。同会は「たまたゆら」の悲劇を繰り返さないために、地域のサービスを活用して在宅で支える仕組みを構築すべきだ」とし、老朽アパートの建て替えなどで都内に支援付き住宅を増やす取り組みを始めている。

退院後の行き場に困るのは、生活保護受給者にかぎらない。入院日数の短縮化で、在宅酸素や胃ろうなどを使う人が退院してくるが、家庭の事情などで在宅が難しいケースは少なくない。退院を求められた患者の相談を受ける「サンユウ退院支援センター」（東京）の山田理史所長は「仕事で帰る暇にないから、老老介護で家で面倒をみられないという家族からの相談が多い」と話す。

治療後の生活はお金次第

病院を出されて困る事例が都内で多く、半年前に事業を立ち上げた。退院を延ばす交渉のほか、介護老人保健施設（老健）や都心から離れた病院など退院後の行き先探しも行う。

低所得者でも入れる公的介護施設は、医療の必要な人を敬遠しがち。老健には常勤医がいるが、薬代や常勤医以外にかかる費用が老健の持ち出しとなる。特別養護老人ホームは医師が非常勤の上、看護師の配置が少ないからだ。医療ソーシャルワーカーらでつくる「転院問題を考える会」（東京）の安仁屋衣子さんは「急性期病院が都心部に多い一方、転院先は郊外を探せばあるが都心部には少ない。そのため、有料老人ホームのニーズが高まっているが、費用を支払える人だけの選択肢。急性期の先のリハビリ、療養、介護がお金次第になっている」と指摘している。

「静養ホームたまゆら」の火災では、都内の生活保護受給者が越境し、無届け施設で暮らす実態が明らかになった。こうした行き場のない高齢者が増える一因として、退院後の受け皿不足が指摘される。東京・山谷のホームレス支援施設では、医療や介護の必要な状態で退院してくる人の入居が長期化し、入居待機者が増加の一途だ。

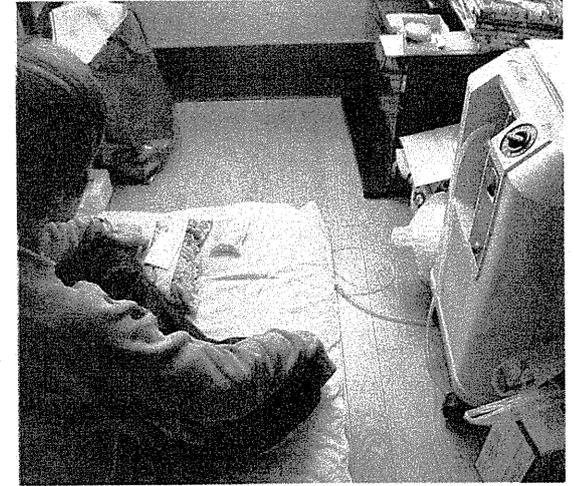
(寺田理恵)

退院後はどくろく

上

日雇い労働者が暮らす東京・山谷地区にも高齢化が押し寄せ、車いす利用者や認知症患者が増えている。「旅館」「ホテル」と看板を掲げた簡易宿泊所が並ぶ一角。生活保護を受ける小林一郎さん(65)「仮名」は三畳ほどの自室で在宅酸素療法を使いながら暮らす。体に酸素を十分に取り込めないため、鼻孔に着けた管を通して濃縮した酸素を吸入する。

自室で在宅酸素療法を使う人も。退院後の受け皿不足は深刻だ。東京・山谷の「自立援助ホームふるさとホテル三晃」



小林さんが暮らすのは、「自立援助ホームふるさとホテル三晃」。ホームレス

胃ろうなど、医療や介護を必要とする人が増えたためだ。ホテル三晃では、他施設から受け入れたケースの40%を「病院から」が占める。入居者81人(今年1月)のうち、要介護認定を受けた人は57%にのぼる。入居待機者が増え続けているという。

同会の滝脇憲理事は「病院を急に出されるため、緊急入居も多い。以前は3カ月後に退院だったのが、3年前から『1カ月後』になり、『再来週』『来週』『明後日』と次第に短くなっている。従来の福祉施設には適さず、心身の状態と住まいにミスマッチがある」と話す。